



〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42 カトリック鹿兒島教区 電話099(26)5100 振込口座 02030-2-8359 編集発行 教区広報部

道標



嘉渡、中種子など四教会を巡礼指定教会に

パウロ年と教区評について検討

七月の司祭評議会

七月七日(火)開催の司祭評議会では、六月二十八日から始まった「パウロ年」に、教区が定める教会への巡礼やパウロについての勉強会開催など、この一年間の過ごし方、及びこの秋に予定されている教区評議会について話し合われた。

パウロ年

教皇ベネディクト十六世が使徒パウロ生誕二〇〇〇年を記念し「パウロの霊性に学び、典礼・文化行事を行い、教会一致を促進する」ために定めた「パウロ年」の過ごし方について、六月

の定例司祭集会に郡山司教は次のような提案をした。
①教区内にある聖パウロにささげられた四つの教会を巡礼指定教会にする。
②パウロの書簡を小教区で勉強する。
この司教の提案について今回話し合った司祭評議会は、教区内にある聖パウロ

にささげられた四つの教会を巡礼指定教会とすることとし、具体的には「司教と

行くパウロの教会」巡礼を次のように企画した。

- ①平土野教会(徳之島)二〇〇八年十一月三日(月)
- ②中種子教会(種子島)二〇〇八年十一月二十二日(土)
- ③嘉渡教会(奄美大島)二〇〇八年十二月六日(土)
- ④玉里教会(鹿兒島)二〇〇九年一月二十五日(日)



パウロ年ロゴマーク

難病と闘い、柔和の人

木村敏彦神父が帰天

キャットスルマン病の治療を続けていた木村敏彦神父が、七月二十二日(火)午後十一時四十九分、入院先の鹿大病院で天に召された。五十五歳だった。

木村神父は一九五三年一月二十八日長崎県北松浦郡に生まれた。大阪の高校卒業後、六年間の社会人経験を経て福岡聖スルピス大神

学院へ進学し一九八六年三月司祭に叙階された。以後ザビエル教会と聖心教会で助任を務めた後、一九八八年九月からは南九州小神学院副院長に就任。その後は再び聖心教会助任、司教館付、マリア山荘初代管理者を務めたほか、「ザビエル渡来四五〇年祭」時には、事務局長として惜しみない

働きをした。二〇〇〇年三月からは知名瀬教会で主任司祭を務めていたがキャットスルマン病に冒されていることが分かり、二〇〇六年四月から鹿大病院で治療にあたった。

神父の葬儀は七月二十五日(金)ザビエル教会で大勢の信者が見守る中、厳かに執り行われた。

教区評議会

教区評議会についても検討したこの日の司祭評議会は、主任司祭と小教区の代表者が参加する会議ではあ

るが、意識面で小教区民の全員参加を訴えることにした。そのため準備文書やアンケートなども提案されたが、聖書と信徒の日常生活を密着させるため、次のような方法がとられることになった。

配布された教区評議会のポスターについて感じたことを言葉にする。ポスターのテーマを記したカードを信徒に配布し、意識を高める。各小教区で次の三つの質問についての意見の集約を行う。

- ①「みことばに触れる」ためには具体的にどうしたらいいか?
- ②「みことばを食べる」とはどうすることだと思うか?
- ③「みことばに生かされる」とは日常生活においてどうすることだと思うか?

教区評議会出席者は、小教区におけるこれらの質問をまとめ、会議の席で発表することで、小教区民全員参加の教区評議会とすることになる。



教区評議会ポスター

YET

こんな歳にもなるとさうでもないが、小さい頃はかなり好き嫌いがあつた。特にピーマン、人参、玉葱... 数え上げると切りはなし。大好きなカレーさえも、これらが入っているとちよつと食べるのを躊躇った。そう言えば、ほうれん草なんて、あのポパイがどんなに強くても、死ぬ気でなければ食べられなかったように思う▼

最近その恐るべき性格の一部と食べ物に対する好き嫌いを表した。「おっぱい」だけではもう栄養が足りないから」と必死で食べるように説得しても、彼はどこ吹く風。気が乗らないと口を開けようとしぬ。毎食がやめるわけにはいかなかった。格闘の時間となってきた▼教区評議会のテーマが決まった。「みことばに触れ、食べ、生かされる」だ。この「食べ」に引きつけられた。味わうでなく、口にすんでなく「食べ」なくてはならないからだ。みことばの主が、ぼくが好むと好まざるとは関係なしに、欲しくないものまで「口に入れようとする姿が頭に浮かぶのだ▼考えてみると、わが子が親の心知らずに口を開かない食事時と同様、これまでの人生で、自分にとって都合のよくない「みことば」を何度となく、口にできなかったことか。いや食べなかつたことか。食べなければ、生きられない、そんな恐ろしいメッセージにも思えて仕方がない。

神は私たちの叫びを

聞いてくださる

1 ※参加者を温かく迎える
 ※主をお招きするための祈り
 ※リーダーによる説明(15分)
 今日この講座の流れを説明

・分ち合いのルールについて
 ①自分自身を見つめ実際の体験を素直に話す。
 ②一人で、話したいだけ話すのでなく、聴くことを大切に。
 ③テーマからそれないように。
 ④悩み相談にならないように。
 ⑤分ち合いは他言しない。
 ⑥人が分ち合ったことを評価・批判しない。
 ⑦キリストが語って下さることを共にして下さることを感じ取るように。

(困難や苦しみに直面している人々の写真をテーブルの上に数枚用意する。ローソク、十字架、テーブルを中心に円形に着席)
 日本の社会は国全体の問題を考えるよりも、個人個人のレベルでのつらさや苦しさを、難しさに目が行ってしまっているように感じられます。家庭・学校・職場などの問題が一向に解決に向かわないのはその組織自体の問題を対象としていないからではないでしょうか?

例題として次のような事件を取り上げたいと思います。(ゆっくりと間をおいて二回読まれます。)

一九九三年三月タイヤメーカー「ブリジストン」の社長室で子会社に移動していた

元社員(五八)が自殺するという事件がありました。その彼が、リストラを進めていた会社(九二年からの六年間で三千人減らし、当人も退社勧告を受けていた)への抗議文を遺しその一部が『朝日新聞』に記載されていきました。以下、それを紹介します。尚、彼に対する会社側の反応の記事は次のように記されています。

北薩地区宣教奉仕者

(信徒使徒職)養成講座⑨

出水教会主任司祭 大松正弘

休んだのは事件のあの日が初めてだった。何かを主張するタイプではなく、驚いている』と話した。『抗議声明文』「入社以来三十数年、ブリジストンと運命共同体として寝食を忘れ、家庭を顧みず暇もなく働き、会社を支えてきた従業員の結晶が今日のブリジストンを築き上げたのである。『役員定年者並びに五十七歳到達者が無条件に退職勧告を受けねばならぬことに断固抗議する。しかも、退社しないなら、さらに給与を半額にしていくやり方はまさに仕打ちである。』「転籍する条件は賃金・給与・労働条件をブリジストンと同一としていたにも拘らず、大幅な格差がつけられている。』「役員定年制は関

連子会社にはなかった制度であるが、ブリジストンと同じ制度が適用されることになった。これまでも数千人にのぼるリストラを実施しているが従業員削減、報酬の搾取など人の問題に手をつける前に、不良資産、施設の処分などの事業の再構築を図ることが第一義ではないか。』「最善の方法は海崎社長道連れの憤死だ。次策は海崎社長の方策転換を約する諫言だ。二者択一は道は残さず。』「ブリジストンの管理職より一致団結し立ち上げられ!」嫌なら辞めろと言う会社のやり方は、永年ブリジストンを支えてきた人々に対する仕打ちとして許されるものではない。それを管理職の諸氏は子羊のごとく無抵抗に受け入れているのです。従業員を塵屑のように扱う経営者の感覚に一致団結し、抵抗すべきである。』「従業員は疲弊している。にも拘らず(会社は)さらに負担を課すことに専念している。』「私はブリジストンをこよなく愛し、これからも愛し続ける。』「関連会社を含め、これまで以上の利益確保のため、時流を利用した過酷なリストラを強行しており、命をかけて私は抵抗したい。』「朝日新聞』一九九三年三月二十六日(金)朝刊

この「会社組織の体質」を八年前の記事がよく言い表しています。「群れを成す家畜が追い立てられるように働く日本のビジネスマンがその群れの中で死んで行く。彼らは、この現象を過労死と呼ぶ。その意味は働きすぎによる急死である。日本の企業戦士は時間、エネルギー、家庭生活、そして遂には健康さえも犠牲にする事を、会社への忠誠心によってしばしば強要されるが、彼らはそのことをむしろ誇りに思っているようである。『過労死』という言葉は、こうした日本の企業戦士の間で恐ろしげに話される専門用語になった。(The Boston Globe, April 29, 1991, 中川明神父訳)

1 私達の国に住む人々全体に影響を及ぼしている難しさ、辛さ、苦しみは何でしょう?
 2 こうした問題についていけないと考えるならそれはなぜだと思いませんか?
 ※小グループに分かれての分ち合い。自分の生き方と照らし合わせて(各問いかけについて10分、全体では30分)

※質問は一つずつ、分ち合いと報告をしながら進んでいきます。
 出エジプト記二章23節〜25節を読んでみましょう。(省略)

略

イマキュレー賛歌

①神は今日、どのように私たちに語りかけておられますか?
 ②私達皆に人の苦しみや圧迫を克服する責任があると言えますか?
 (隣同士での分ち合いと全体での発表)

1 リーダーによるまとめ内容についての質問やコメントが出されます。
 2 祈り(自分を神の前に置き、振り返る。10〜15分)

サダナの祈りによる) 今日の日、何がありましたか? 私はキリスト者として人々の苦しみや圧迫に対して責任ある行動をとつてきたでしょうか? または、社会の様々な問題に対して責任ある行動をしてきたでしょうか? 社会に対して、私はどのように変わることが求められているのでしょうか?

ブログに書いたり、ミサで話したり、シドニーに行く若者たちに書いたりしたのだが、このところイマキュレー賛歌が止まらない。映画にもなったルワンダ虐殺。ツチ族のイマキュレーは母親が学校の先生、父親は牧畜業。裕福で熱心なカトリック信者の家庭で育った。悪夢は大学三年の一九九四年に始まった。大統領の乗った飛行機が撃墜されたのをきっかけにツチ族によるツチ族の殲滅作戦の火ぶたが切つて落とされたのだ。

昨日までの隣人が殺人鬼と化し、平和な村はたちまちのうちに阿鼻叫喚の地獄絵図。そんな中両親と三人の兄弟も次々と犠牲になり、七人の女性子供とともに牧師館のトイレにかくま

われたイマキュレーただ一人が生き延びることに。横になつて休むことも出来ず、声を出して話すことも出来ない生活が三か月もその間大ナタと銃で武装した村人が引いては返す波のように何度も家宅捜索を繰り返す。生きた心地もしない中で彼女は父親からもらったロザリオを握りしめながら必死に祈つた。そして、心に去来する怒りや復讐心と戦いながら神の愛を信じ続け、生かされている意味を問いつける。そして神の愛を信じる当然の帰結ではあるが、まさに希望のないときでも決して希望を失うことはなかった。

そんな彼女が救われ、国が解放されたとき、彼女は今では刑務所に拘留されているかつての村のリーダーに会いに行く。ぼろをまと

い目を潰されたかつての実業家でもあった殺人鬼の余りにも変わり果てた姿に愕然とする。「フェリシアンは悪魔を心に呼び込んだのです。そしてそれは、魂の癌のように彼の人生をむしばんだのです。彼は今犠牲者たちの犠牲者です。苦悩と後悔の中で生きることを定められたのです。私は彼が可哀想でならなくなりました」(生かされて三五二頁)。「そして、そのことを言うためにここまで来たそのことを、静かに言いました。『あなたを許します』(同書三五三頁)。

手にとつて読んで欲しい。イマキュレーの信仰の軌跡が克明に記されている。あなたの信仰に風穴が開くに違いない。



+KABAYAN SEKSIYON+

"Ang Banal na Kasulatan sa Buhay ng Simbahan"

Naunawaan na natin ang kahalagahan ng Banal na Kasulatan sa buhay ng mga nanampalatayang Kristiyan. Alam na natin sa ang Salitang ito ay naging laman at nakiisa sa atin, sa buhay ng Simbahan. Ipinahayag na ang Banal na Kasulatan ay mayroon relasyon sa buhay ng Simbahan. "At ito'y sinasabing may lakas at kapangyarihan ang Salita ng Diyos na pwedeng makapanglingkod sa Simbahan bilang kanyang suporta at lakas, at ang mga anak ng Simbahan bilang pagpalakas ng kanilang panampalataya, pagkain ng kaluluwa, at dalisay at ang walang katapusan pinanggalingan ng buhay espirituwal."

At bilang "daan sa Banal na Kasulatan, ito'y malawak na bukas sa mga kristiyanong nanampalataya." Kung kaya, sa 'pag-aara; ng banal na pahina', na siyang maging kaluluwa ng banal na teolohiya. At ang paglilingkod sa Salita- pagpahayag na pastora, katekismo at lahat ng pormang kristiyanong pagtuturo, na isa sa bagay na iyan, ay ang liturhikong pagpaliwanag (homilya), ay kailangan manguna sa unang lugar- may kalusugang pagpapakain at nagdada la ng kabanalan sa pamamagitan ng Salita ng Kasulatan."

Kaya ang Simbahan "kailangan maging malakas at konkretong pagsasabihan ang mga nanampalatayang kristiyan... na pag-aralan mabuti" ang nakakataas na kaalaman ki Jesu Kristo', sa pamamagitan ng palaging pagbabasa ng Banal na Kasulatan." "Ang walang kaalaman sa Banal na Kasulatan, walang kaalaman din ki Kristo."

Sa madaling salita, ang Simbahan (tayo) ay palaging nagpupugay sa banal na Kasulatan tulad rin ng nagpupugay niya sa Banal na Katawan ng Panginoon na parehong nagbibigay kalusugan at nangangasiwa sa buong Kristiyanong pamumuhay."

"Ang salita mo'y tanglaw sa mga paa ko at liwanag sa landas ko." (Salmo 119: 105)



8月17日(日)

第一部 ザビエルウォーク&平和の鐘を鳴らそう

祇園之洲ザビエル上陸記念碑前から鹿児島カテドラル・ザビエル記念聖堂までをザビエル像と共に祈りながら歩きます。ザビエルの見る鹿児島はどのような街になったでしょう。ザビエル教会到着後は鹿児島ユネスコ協会と協力して世界平和を祈りながらカテドラルの鐘を鳴らします。出発式14時 出発14時20分(祇園之洲~福昌寺~鶴丸城~中央公園~ザビエル記念聖堂)

第二部 記念ミサ(17時)

鹿児島が日本の教会を代表してささげるこのミサで、ザビエルの熱い思いを心に刻み、宣教するカトリック教会、鹿児島教区へと生まれ変われるよう祈りましょう。

第三部 パーティー(18時30分)

信者同士のそして市民の皆さんとザビエルを中心にして心を通わせましょう。今年はザビエルクイズにも挑戦してください。パーティー前売券は各小教区で販売されています。当日券は1,200円

■企画・デザイン・印刷まで、あなたの猫の手となり尽くします。 PLANNING・PRODUCE

- チラシ・パンフレット・ポスター・DM他各種印刷物製作
- 新聞・雑誌・その他広告企画製作
- ロゴマーク・キャラクター・イラスト製作
- ★バスタル画による、可愛いお子様や愛犬などの似顔絵製作も承ります。

■福岡市/Yくん ■鹿児島市/リーヤちゃん

巧房CATS
代表 田中和幸
〒892-0871 鹿児島市吉野町563-3
TEL・FAX (099)243-8984
E-mail: cats@po2.synapse.ne.jp

「かかりつけの電器店」として お役に立ちます!!

電器のプロショップ
せうじょうや 吉野店
大明丘2丁目(大明丘中央バス停前)
TEL (099)295-7286

鹿児島・宮崎
熊本・福岡・沖縄に
57店舗の広がる安心
ネットワーク
吉野店代表 田中 晋司

電気のトラブル解消! ⇒ 快適な暮らし応援します。

業務内容

- 太陽光発電システム販売・工事
- オール電化工事
- エアコン移設・工事
- アンテナ工事
- 電化製品修理・販売
- その他電気工事

㈲マンボウサービス
鹿児島市吉野町 845-6 246-3678 ☐ 246-3687

学校法人 聖マリア学園 **聖母幼稚園**

一人ひとりをたいせつにし、
その子らしい人格の形成を援けるために
モンテッソーリ教育(福音)を!!

〒890-0054 鹿児島市荒田2丁目53番11号
099(254)3555 / ☐ 099(258)9513
seibo@po3.synapse.ne.jp http://academic1.plala.or.jp/seibo/

加世田聖母幼稚園

園長 泉 浩二

南さつま市加世田本町 35-2
0993-52-2553

枕崎カトリック幼稚園

園長 泉 浩二

枕崎市山手町 127
0993-72-0717



E-mail kiwayoshi@muc.biglobe.ne.jp

ザビエル上陸記念祭を応援します！



ザビエルを案内するヤジロウ (上陸記念碑・祇園之洲)



上陸記念ミサ



平和の鐘を鳴らそう

聖フランシスコ・ザビエルの
熱い思いを感じてください！



長谷川路可画伯のザビエル (ザビエル教会所蔵)



ザビエルウォーク



市来鶴丸城のザビエル像

あなたの美容室

サロンド ハッピー (予約制)

鹿児島市真砂町 59-17 (真砂温泉隣)
問合・予約 ☎ @099 (257) 1920

聖フランシスコ・ザビエルの 日本上陸記念をお祝いたします

日本カトリック看護協会 (JCNA)
鹿児島支部 会長 松村 精子

たかさお歯科医院

アシジの聖フランシスコ
高 竿 寛 実

〒892-0802 鹿児島市清水町 17-7
099 (248) 3600

Your Biggest Priorities
PPS
 どこ
 ぞ希
 り望
 の
 創
 デ
 ザ
 イ
 ン
 を
 (株) プーナ
 代表取締役 太田勇二郎 (谷山教会)
 0993-47-0877

洗礼者ヨハネ 吉原昌吾
 鹿児島市荒田二丁目 46-12
 ☎ i099) 254-9978

居酒屋 **ねん**
 つづら

四十人が集まり学習と研鑽

第三回鹿兒島教区「医療者の集い」

六月二十九日(日)午後
ザビエル教会で「医療者の集い」が開かれた。
この集いは昨秋鹿児島で開催された第四十九回日



自分と仲良くなる作業に取り組む参加者たち

本カトリック看護協会全国大会に向けて準備を進めていた同看護協会鹿児島支部が、「大会を成功させるためには教区の医療従事者の協力が不可欠」と看護師以外の医療従事者

に呼びかけて二〇〇〇年から始められたもので、今回が三回目。
この日は教区内にいるホームヘルパーなども含む医療従事者百三十人(うち本土地区に百人)のうち、

約四十人が集い、「カトリック者としての気付きの時

小教区発足三十五周年を祝う

カトリック玉里教会

六月二十九日(日)玉里教会(ロベルト神父主任司祭)では、小教区発足三十五周年の記念ミサをさげた。
一九七三年七月一日、ザビエル教会から独立する形で玉里小教区は誕生した。他県と変わらず鹿児島でも始まった人々が町の中心部から離れて住むドーナツ化現象のため、鹿児島市の北部住宅地に教会が望まれる

ようになっていた。そこで教区は、一九七〇年七月に鹿児島市草牟田町にある善き牧者会の「玉里幼稚園」(現善き牧者幼稚園)隣接地を購入、布教の拠点とするために司祭館を建築(同年十二月六日落成)し、成相明人神父を派遣して準備を進めた。小教区として位置づけられたのはそれから三年後のこととなる。最初の主任司祭にはデフォー神

を持とうの理念の下に」をテーマに、医療現場で不可欠な信仰を持つ医療従事者の心構えを学んだ。会員たちは、後藤正道医師(谷山教会)から「ハンセン病療養所とらい予防法廃止」の講話でその悲しい歴史を学

び、その後は松田清四朗神父(始良教会)指導のもと患者と付き合うために不可欠な作業として、自分と仲良くなるための「フォーカシング」を行った。また会の終りには聖体賛美式で、会の実りを祈り合った。

▼**奄力連総会**
奄美カトリック女性連盟は六月二十二日(日)聖心教会で三十回目の総会を開催した。

▼**パッションの会**
障害者自立の会「パッションの会」では、六月二十八日(土)と二十九日(日)の二日間、今年列福される熊本・大分の殉教者縁の地を巡る巡礼を行った。参加した二十六人は、熊本の小笠原みやの墓やペトロ岐部神父の出身地国東などで祈りをささげた。また熊本では島崎教会の信徒と分かち合いの時間を持つたほか、最終日にはレオ七右衛門の出身地都城を訪ねる意義深い旅となった。

▼**連合壮年会黙想会**
七月十二日(土)午後から十三日(日)昼まで、連合壮年会の黙想会がマリア会近くの墓地で「ブイジュ祭」を開いた。

同祭りは、瀬留教会を建設したフランス人神父ブイジュ神父(一八六八〜一九二二年)の功績を讃えるもの。神父は一九〇三年から十九年間瀬留を中心に布教活動を続け、今もその遺骨は地域の人たちの共同墓地に眠っている。

瀬留でブイジュ祭

▼**霧島国際音楽祭**
霧島国際音楽祭の教会コンサートが七月十八日(金)鹿児島カテドラルであった。

▼**霧島国際音楽祭**
霧島国際音楽祭の教会コンサートが七月十八日(金)鹿児島カテドラルであった。

▼**霧島国際音楽祭**
霧島国際音楽祭の教会コンサートが七月十八日(金)鹿児島カテドラルであった。

▼**霧島国際音楽祭**
霧島国際音楽祭の教会コンサートが七月十八日(金)鹿児島カテドラルであった。

▼**霧島国際音楽祭**
霧島国際音楽祭の教会コンサートが七月十八日(金)鹿児島カテドラルであった。

松村恵理さん(吉野教会)が 三人目の臨床パストラルカウンセラーに

二年間の研修中、常に「いっぱいいっぱい」の状態、目の前の課題にあたってきました。研修を通じて、自分の感情を意識することの大切さを知り、内面を整理していく助けになりました。思い込みや頑なさから解放されて、人とのかわり方も変わってきました。

スピリチュアルケアワーカー養成のための研修という「特別な空間」の中に身を置いて、育てていただいたことに感謝し、ユーモアのセンスを磨きながら、今できることに取り組んでいきたいです。自分らしく歩んでいくことができると信じてい

ます。
昨年に参加したドイツ研修旅行では、最初に訪れたエイズホスピス「ハウスマリアフリーデン」の所長ケルコヴィウスさんが患者さんの尊厳を守るかわり方や仕事の喜び、ご自身の内面を守る気風や家族について話して下さいるのを伺って「ホスピスは建物や設備より、そこで患者さんと共にいる『人』が大切」と気づかせていただき、目指す方向が見えたように思いました。

そのケルコヴィウス氏が八月二十三日(土)午後、ザビエル教会で講演をして下さることになっ

講演会

「エイズ患者さんと共に生きる」

講演: ティーレ・ケルコヴィウス氏(ドイツで初めてのエイズホスピス「ハウスマリアフリーデン」施設長)

とき: 8月23日(土) 14時

ところ: ザビエル教会聖堂

会費: 1,500円

問合せ: 099-248-2412 (松村恵理)

終身助祭叙階式

受階者: ガブリエル四條淳也氏(喜界島)
日時: 9月15日(月) 午前10時
場所: 鹿児島カテドラル・ザビエル教会
司式: 郡山健次郎司教

8月

今月の暦

3日(日) 年間第十八主日

▼ルーシン神父命日(一九九四年)

4日(月) レヒナ神父叙階記念日(一九六〇年)

6日(水) 主の変容

▼日本カトリック平和旬間・15日まで

一九八一年、教皇ヨハネ・パウロ二世は広島で、「過去を振り返ることは、将来に対する責任を担うことである」と言われました。戦争を振り返り、平和を思うとき、平和は単なる願望ではなく、具体的な行動でなければなりません。そこで日本のカトリック教会は、その翌年、もともとも身近で忘れることのできない、広島や長崎の事実を思い起こすのに適した八月六日から十五日までの十日間を「日本カトリック平和旬間」と決めました。

「平和旬間」に広島教区と長崎教区では、全国から司教をはじめとして多くの信者が集まり、「平和祈願ミサ」がささげられます。各教区でも、平和祈願ミサや平和行進、平和を主題とした映画会、講演会、研修会、平和を求める署名などが行われます。

7日(木) 小平卓保神父命日(二〇〇五年)

8日(金) 田原 章神父命日(聖トミニコ)

10日(日) 年間第十九主日

15日(金) 聖母の被昇天

17日(日) 年間第二十主日

▼ザビエル上陸記念祭・14時(ザビエルウオークスタート・祇園之洲)・17時(記念ミサ・ザビエル教会)

18日(月) 夏期集中講座・ザビエル教会一階ホール・22日

24日(日) 年間第二十一主日

28日(木) オーバン神父命日(一九八八年)

▼橋口啓悟神父命日(聖アウグスチヌス)

31日(日) 年間第二十二主日

第17回夏期集中講座

テーマ: 福音書の奇跡物語を読む
日時: 8月18日(月)~22日(金)
午前の部/10時~12時
午後の部/19時~21時
場所: ザビエル教会1階ホール
講師: 竹山 昭神父
受講料: 1人500円(資料代)
申込: 教会、修道院ごとにまとめて、8月10日(日)までに教区本部「夏期集中講座」係まで
☎099(225)0440

東條神父様の想い出

みことばに触れ、食べ、生かされる

鴨池教会宣教奉仕者 河野 博

私が東條神父様に出会ったのは、洗礼を受けて間もなくの頃だった。神父様は「朝五時にミサを立てるから研修の家においで」と言っておられた。当時、私の家庭は子二人と親で四人暮らしをしていたが、子供もまだ小さく、乳児だったと思うが、ともかく、四人で「ミサにあずかりに行つた」。

そこそこの福音を神父様を囲んで五、六人の信者で聴くことになった。神父様は一つひとつの福音を丹念に読み、私たちはその言葉に聴き入っていた。回を重ねるごとに神父様にグイグイと引張られていった。

そしてミサ中に割られたご聖体は、病人訪問に使われるため、ご聖体を入れられる黒い財布のようなものにしてしまっておかれた。神父様の心の温かみを感じるときだった。

神父様は朝もミサを立てなさるが、夕方もミサを立てなさる。本当に福音を子供にご飯を食べさせるようにして語って聞かせて下さった。神父様は、脳の血管障害のため、身体が少し不自由だったが、それを意

に介さず、信者達にお話をされ、信者は多くの感銘を受け、影響を受けた人も多かったと思う。ミサの後で、神父様がよく歌われていた歌で、次のような歌がある。

「いつも喜んでいなさい 絶えず祈りなさい すべてのことについて 感謝しなさい」 私たちも皆でよく歌った。今でも神父様の歌声が聞こえてくるくらい鮮明に脳裏に残っている。

だったが、信者達の胸には神父様が一生懸命祈られて出てきた言葉や福音、そして歌が今もはつきり残っている。信じて疑わない。まさしくみことばに触れ、そしてご聖体を頂き、ご聖体によって生かされている自分を感じた。神父様は、もうすでに亡くなられたが、信者の心の中には、熱く福音を語られるお姿が今も将来も生き続けていくと思う。

奄美カトリック女性連盟総会報告

六月二十二日(日)奄美カトリック女性連盟は、三

十回目を迎える総会を開催しました。奄美連は一九七九年八月に、二年近くの設立準備期間を経て次の理念のもとに設立されました。「奄美大島におけるカトリック教会の女性がキリストの共同体として、相互の交わりを深め、各教会と地域社会における使徒職活動に寄与することを目的とする」

今年十月、鹿兒島教区評議会が開かれます。テーマは「みことばに触れ、食べ、生かされる」です。このテーマを決めたのは司祭評議会です。三回ほどの話し合いの末この文言に決まりました。

司祭評議会での司祭たちの一致した思いは、信者一人ひとりがキリスト自身から生きる力を得て欲しい、そのためには個人で聖書を手にとり読むことから始めたかどうか、ということでした。その思いの根底には福音宣教の行き詰まりがあります。そして、教会の閉塞感があります。このような状況を打開するには「神のことば」しかない、というのが一致した意見です。

鋭く、精神と霊、関節と骨髄とを切り離すほどに刺し通して、心の思いや考えを見分けることができる(ヘブライ人への手紙四章十二節)と聖パウロは言います。自分を満足させる神のことばではなく、自分を神の子らしく成長させる神のことばとの出会いが出来ますように。(H・N)

文芸

俳句

市来房枝選

鹿兒島 上野千穂子
初聖体小さき子等の手司祭の手
(評)初聖体を受ける瞬間の様子が「小さき子等の手司祭の手」に表現され感動が伝わってくる。

国分政 ノブ子

聖堂の建設資金の新茶の香
(評)聖堂の建設資金の足しにと教会で販売されるお茶の売上金の一部を寄付される方がある。着眼点が面白い。

純心学園 山頭 信子

五月雨や晴れ間に見ゆる殉教碑
鹿兒島 徳永ノブ子
ご御堂の大向日葵や朝のミサ
蝉時雨驟雨にはたと鳴きやみぬ
夏草や匂へる程に繁りたる
(評)絶えず五感を働かせて自然と向き合っておられる佳作

出水 遠竹 睦郎

わが命主愛しみと知りし今日只ひたすらに親しく祈らむ
「思川」にしつくり味わう言葉なり命の流れ我が生涯を
(評)一首ともに感銘深い佳作。神父さま自ら投稿されたことが嬉しい。

鹿兒島 前田 儀子

父逝きて歳月は過ぎ床の間の琵琶の「木枯し」の絃の弛める

出水 沖 弘子

純心学園 川上 和

夕景を噴煙描く桜島
あぜ道の可憐なねじ花朝の露
鹿兒島 春山マリ子
ひまわりや入道雲と向き合へり
名瀬 林 常広
のどかわく吾も飲むとき主もかわきをうるおすかな

大 口 森 博伸

サミットの首脳を書きし七夕の願ひも竹の笹につるさる
御心にそえぬ望みの絶えずして私は芽吹かず一粒の麦
巡り来し生誕二千年「パウロ年」宣教の歩みふどうの幹に
(評)パウロの宣教の恵みをしみじみと感じさせる一首

純心学園 川上 和

天文館のグリーンベルトの電車道篇 姫館の小旗は招く
鹿兒島 春山マリ子
次ぎつぎと身内召されし哀しみにひたる間もなく時は過ぎゆく

選者詠

祈りのこころさまさまなれど吾は祈る「主よ永遠の安息を与え給へ」と
(平和記念館にて)

新風

みことばと宣教

今年十月、鹿兒島教区評議会が開かれます。テーマは「みことばに触れ、食べ、生かされる」です。このテーマを決めたのは司祭評議会です。三回ほどの話し合いの末この文言に決まりました。司祭評議会での司祭たちの一致した思いは、信者一人ひとりがキリスト自身から生きる力を得て欲しい、そのためには個人で聖書を手にとり読むことから始めたかどうか、ということでした。その思いの根底には福音宣教の行き詰まりがあります。そして、教会の閉塞感があります。このような状況を打開するには「神のことば」しかない、というのが一致した意見です。

パウロ年のロゴ

使用されているのは「鎖」「剣」「本」「十字架」「炎」などです。鎖は、ローマで囚われの生活を送っていたことを、剣はパウロの殉教の際の道具であるだけでなくパウロのメッセージの力強さを、本は聖書を、炎は聖パウロの心で絶えず燃え続けていた愛徳と慈しみの愛を表しているのです。(中央協議会HPから抜粋)

記念すべき三十周年総会では、
①活動計画案
②三十周年記念誌の発行の件
③年会費改定の件
などを提案、それぞれ承認されました。

今回の総会は会員の時間的な制約を考慮し、従来の一日総会を半日に短縮、更にお子さん連れの会員用に託児室を準備するという試みもしてみました。

総会の後奄美地区長で奄力連の顧問司祭をお願いしている小隈神父様に講話をお願いしました。神父様は奄力連が三十年という長い期間継続して活動してきたことに敬意を表して下さった後、「地域における福音宣教」というテーマで福音を通して地域にかかわり、福音の光に照らされて隣人と自分自身の信頼関係を広げていって欲しい。キリストの証し人として働くよう希望すると述べられ、「行いが伴わなければ信仰は死んだもの」とヤコブの手紙で結ばれました。その後神父様の祝福を頂き、三十周年総会を締めくくりました。(奄美カトリック女性連盟 会長 久保正子)

カトリック新聞

1部本体価格150円(税・送料別)
購読料金(前納、税・送料込)
半年4740円・1年9480円

見本紙贈呈いたします

〒135-8585 東京都江東区新発 2-10-10 日本カトリック会館5階 カトリック新聞社
TEL 03-5632-4432 FAX 03-5632-7030 Email kodoku@cwjpn.com